

第20期第18回常任理事会議事録

日時 昭和55年4月28日(月) 10.00~13.00

場所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 内田, 奥田, 河村, 神山,
関根, 山下, 松本, 増田

報告

〔庶務〕

1. 3月19日, 文部省初等中等教育局教科書管理課長から, 文部省著作刊行物発行者の現況は握について照会がきた。
2. 3月25日, 気象庁観測部統計課長から, 理科年表掲載原稿について依頼がきた。
3. 4月1日, 文部省学術国際局情報図書館課長から, 学術用語標準化の推進について連絡があった。
4. 4月11日, 自然災害科学総合研究班代表者石原安雄氏から, 第17回自然災害科学総合シンポジウムの開催について後援依頼がきた(10月20, 21日 名古屋大学農学部)。

〔気象研究ノート〕

編集委員の酒井重典会員が札幌へ転勤のため統計課の金田三郎会員を後任として推薦したい。

〔教育と普及〕

夏季大学の実施計画の原案了承, 本年は会場費が余分の出費となるため受講料を値上げせざるを得ない。気象学の普及書は今期の事業として刊行したい。

〔学術会議〕

第79回の総会についての報告があった。詳細は「天気」に掲載する。

議題

1. 春季大会の準備について
 - (1) 理事長あいさつ, 事業経過報告, 事業計画等について
 - (2) 昭和54年度予算, 決算について
 - (3) 昭和55年度予算(案)について
 以上原案了承。
2. 100周年記念事業について
 - (1) 「天気」アンケート内容を「天気」(6月号予定)に印刷して閉じ込んだ返送はがきで回答を公募する。アンケートの内容について一部訂正し, 注釈をつけることで了承。
 - (2) 「気象集誌」100周年特別号(Vol. 60, No. 1)の原稿募集案了承。

(3) さきに岸保理事長から気象庁長官あて申入れした地球の気候と長期予報に及ぼす海洋中の諸過程の影響に関する会議について回答がきた。すなわち, この会議を気象庁が招請することについては, WMO/ICSU 合同科学委員会からの正式な要請をまっけて検討されるとのこと。

(4) 新田理事が, Regional Technical Conference on Tropical Meteorology について, WMO, WWW Dept. (Director Dr. Weiss) との打合せした次の報告について検討が行われた。

○日本気象学会, アメリカ気象学会との共催の件了承。

○1982年秋開催了承。詳細は後日打合せの上決定。

○本会議に関する事務局長の日本側への依頼状はまらず気象庁長官あてにくる。その後の処置について気象学会としては気象庁に前もって申入れておく必要がある。

○外国人(日本人以外)参加者は150~200名, 最低100名といていたが, この数については十分な連絡が必要。

○WMOの1982年度予算に2万ドル計上する予定だが(印刷その他), 気象学会の見積りを送って欲しい。必要に応じてWMO負担分の増額の可能性を検討したい。

○用語は英語。

○台風業務実験の話題も含めたい。

これらについて21日の全国理事会に先立ち関係者で話し合っ、理事会に案を出すことにした。

3. 昭和56年度当番支部について

順番では中部支部となるので, 事務局から名古屋地方気象台に連絡をし, 了解をとる。

4. 気象学手引の刊行について

原案了承

5. その他

(1) 学術用語制定に関するアンケートについて 事務局作成のアンケートを提出することを了承。

なお, 次期(第21期)には学術用語委員会を復活させることを了承。

(2) 学協会活動状況調査について 日本学術会議事務局から依頼の学協会活動状況調査表のうち, 国際会議の国内会催(過去20年間)については, 小平理事

が担当することとし、その他は事務局で記入し提出することになった。

- (3) 理科年表原稿掲載について 気象庁統計課長から依頼の理科年表原稿については、「天気」編集委員会が担当することとした。次期（第21期）へ申送事項とすることを確認。
- (4) 日本学術会議の選挙について 予備選挙は時期的

に不可能なので、学会員で立候補した場合は全員理事会として推薦する。今度の理事会で了解をとる。なお、選挙管理委員会での申送事項として、日本学術会議の選挙についてはっきりさせる必要がある。

承認事項 有賀祥夫ほか38名の新入会員を承認。